

西東京市 図書館だより

平成18年(2006年)7月1日

第22号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

下保谷図書館

西東京市下保谷4-3-18
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行：西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>

本号は西東京市図書館三十周年記念特集号です。
図書館ゆかりの六人の方々に原稿をお寄せいただきました。

図書館を支えるのは職員の資質

前戸板女子短期大学教授(図書館学)

大澤 正雄

西東京市に図書館ができてはや三十年ということである。三十年前というと一九七六年。西東京市の図書館は中央(当時田無)が一九七五年、下保谷が一九七六年の開館である。

一九七〇年、東京都は「図書館政策の課題と対策」という図書館政策を掲げた。それは、図書館をつくる市町村には施設建設費の1/2、資料費の1/2を三年間東京都が補助をするというものだった。その結果、東京多摩地区に図書館がたくさん出来た。

それから三十六年たった現在、東京都は都立日比谷図書館の運営を放棄し、千代田区への移管をめざしている。そして、都立図書館の蔵書中複本は不要と約五十万冊の蔵書を廃棄し、資料費と職員も大幅に減らしている。

私は田無(現西東京)市に住んで二十六年目になる。四半世紀をへたのであるが、田無に図書館がはじめてできたとき、わざわざ見に来た覚えがある。それは、初代の館長の帯川さんとはちよつとした知り合いでもあり、また、当時採用された職員の何人かとも顔見知りでもあった。そんな関係から、田無の図

書館には特に興味をもっていた。

新館の図書館は当時広がり始めていたワン・フロアーで児童書がかなり多く明るい使い勝手のよい図書館だった。床が木というのも当時では目あたらし

く一九七〇年
できた日野市立
中央図書館でお
こなわれていた。

同じ、西東京
で保谷市の下保
谷図書館も忘れ
たい図書館で
ある。原爆小文
庫を備え、小さ
いながらもいいサ
ービスを行って
いた。

当時、田無も
保谷も最初から
図書館員は専門
職(司書)で採用
しその能力を存
分發揮できる人
事体制を保って
きたことはすば



らしいことである。図書館はそこに働く職員の資質に左右されるし、その資質は、基礎的な知識に加えてながい経験の積み重ねによって形づくられてくるのである。

東京二十三区等の図書館業務が民間に委託され、時給八五〇円の常に入れ替わるパートに頼っている昨今、西東京市の図書館はこの人事体制を是非続けていただきたい。教育をケチるつけはやがて将来の市民に降りかかるのである。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを